

# 令和7年度 港湾局 運営方針

## I 基本目標

横浜港は「国際競争力のある港」、「観光と賑わいの港」、「安全・安心で環境にやさしい港」を3つの柱とし、横浜経済の活性化と市民生活を豊かにする総合港湾づくりを目指します。多くの関係機関や民間事業者と連携しながら、我が国を代表する国際貿易港として、港湾機能の強化と港の賑わい創出に取り組むとともに、カーボンニュートラルポートの形成やDXの導入、防災力の向上等、将来を担う重要な施策を着実に推進していきます。

## II 基本戦略の実現に向けた考え方

我が国の貿易量の約99.6%は港を経由して運ばれており、横浜港の経済波及効果は市内の所得・雇用の約3割と関わっています。横浜港は、市民生活を支える無くてはならない都市インフラであり、中期計画に掲げられたテーマ「生産年齢人口流入による経済活性化」「まちの魅力・ブランド力向上」「都市の持続可能性」に大きく貢献し、基本戦略「子育てしやすいまち 次世代と共に育むまち ヨコハマ」を力強く支えていきます。



### 港の担う役割

#### 衣食住に占める輸入の割合

分類	品目	割合
衣	羊毛	100%
	綿花	100%
	衣類	98.5%
	とうもろこし(飼料)	100%
	大豆	94%
	小麦	85%
	砂糖類	66%
食	果実	61%
	魚介類	46%
	肉類	47%
	米	1%
	天然ゴム	100%
	木材	64.2%
	鉄鉱石	100%
住	石炭	99.6%
	原油	99.7%
	天然ガス	97.9%
	LPガス	78.0%
	エネルギー	1%
エネルギー等	出典: SHIPPING NOW 2024-2025 (一般社団法人日本船主協会)	

#### 貿易に占める海上輸送の割合 (トン数ベース)



出典: SHIPPING NOW 2024-2025  
(一般社団法人日本船主協会)



コンテナ船 MSC ISABELLA

我が国貿易量の99.6%は海上輸送であり、横浜港の定期航路におけるコンテナ化率は89.2%となっています。

(2023年 横浜港統計年報)

出典: SHIPPING NOW 2024-2025 (一般社団法人日本船主協会)

出典: 東京エルエヌジーテンカーブル株式会社

### III 目標達成に向けた施策

#### 1 国際競争力のある港

「国際コンテナ戦略港湾」として、急速に進展する船舶の大型化に対応し、基幹航路の維持・拡大を図るため、「集貨」「創貨」「競争力強化」の3つの施策を展開します。①新本牧ふ頭の整備を引き続き推進するとともに、②南本牧ふ頭MC 1～4のコンテナターミナルの背後地5-1ブロックの整備、③本牧ふ頭D 5コンテナターミナルの再整備や④A突堤ロジスティクス拠点の形成等を始めとする本牧ふ頭再編強化等、コンテナ取扱機能の強化に取り組みます。また、東日本最大の自動車取扱拠点である大黒ふ頭では、世界的な脱炭素化の潮流等を踏まえ、民間事業者等と連携しながら、⑤自動車ターミナル機能強化等を進めます。

さらに、国や民間事業者とともに、物流の様々な分野においてDXに取り組み、生産性の向上や快適な労働環境に向けた改善等を進めるとともに、港湾の整備や管理において横浜市の港湾DXを推進し、業務効率化とコスト縮減に取り組みます。



【南本牧ふ頭に着岸する世界最大級の超大型コンテナ船】



【新本牧ふ頭整備イメージ模型】

#### 2 観光と賑わいの港

安全・快適にクルーズ船の受入れを行うとともに、観光により市内経済を活性化するため、みなとみらい21地区等において、臨港パークや汽車道等の再整備、歩行者の回遊性向上等に取り組みます。みなとみらい21地区最大の緑地である⑥臨港パークでは、港を望めるロケーションや都心臨海部の立地特性等を生かし、より一層魅力的な緑地空間を創出するとともに、パシフィコ横浜との一体性や回遊性を向上させるため、歩行者デッキの整備を進めます。また、船齢95年を迎えた国指定の重要文化財である⑦帆船日本丸については、マストや船体の補修を行います。

⑧山下ふ頭再開発は、これまでにいただいた市民の皆様のご意見、事業者の皆様のご提案や、地域の関係者、学識者等から構成される検討委員会からの答申を踏まえ、新たな事業計画の策定に向けた検討を行います。



【世界一周から帰港したクルーズ船】



【臨港パーク】

### 3 安全・安心で環境にやさしい港～カーボンニュートラルポートの形成～

2050年の脱炭素社会の実現を目指し、国、民間事業者等と連携しながら、カーボンニュートラルポートの形成に向けて取り組みます。次世代エネルギー（水素、メタノール、アンモニア、合成メタン等）による船舶や臨海部産業のエネルギー転換の促進、グリーン電力供給拠点形成に向けた検討等に取り組むとともに、停泊中のクルーズ船から排出されるCO<sub>2</sub>を削減する⑨陸上電力供給設備の整備検討等を進めます。

また、豊かな海づくり事業として、①新本牧ふ頭における生物共生型護岸の整備、⑥藻場・浅場の形成、市民に開かれた漁港の改修等の取組を推進します。

防災力向上のため、③本牧ふ頭D5コンテナターミナルなどにおいて、耐震強化岸壁の整備を進めるとともに、百数十年に一回の頻度で発生する防護レベルの津波や高潮、高波からの被害を防ぐため、大黒ふ頭地区において止水壁等の⑩海岸保全施設の整備、災害情報把握のためカメラの設置等を進めます。また、港湾施設等の計画的な点検や修繕・改良工事を実施して施設の長寿命化を図るとともに、安全・安心に港湾をご利用いただきるために必要な施設管理や入出港する船舶の運航調整等の港湾サービスの提供を行います。さらに、感染症や特定外来生物への対応を含む水際の保安対策に着実に取り組むとともに、港湾関係者が働きやすい環境の整備を行います。



## 【横浜港が目指すカーボンニュートラルポート構想】

### 【生物共生型護岸のイメージ】



## IV 施策体系

基本目標を実現するために以下の施策・事業に取り組みます。  
(各施策・事業に係る中期計画における政策・施策番号を右記に表記しています)

### 1 国際競争力のある港

#### ★ 令和7年度新規拡充事業

主要施策	主な事業	政策・施策番号
1 コンテナ取扱機能強化	★ 新本牧ふ頭の整備	31-6, 37-2
	★ 南本牧ふ頭コンテナターミナル等の整備	37-2, 38-1
	本牧ふ頭の再編強化（D5コンテナターミナルの再整備等）	33-3, 37-2
2 自動車貨物取扱機能強化	★ 自動車貨物取扱機能強化	37-5, 38-1
3 港湾のデジタル化の推進	港湾情報システム改修等による利便性・機能性の向上	37-1・3
	横浜港港湾統計管理システムの改修・運用	37

### 2 観光と賑わいの港

主要施策	主な事業	政策・施策番号
1 安全・快適なクルーズ船の受入れと市内観光の促進	客船ターミナルの運営等	29-6, 37-3・4
	客船寄港促進事業	29-6, 37-3
2 賑わいのある港	★ 臨海部における賑わい創出推進事業	29-6, 37-3
	臨港パークの再整備	29-6, 37-3
	★ 汽車道・運河パーク遊歩道の改良	29-6, 37-3
	賑わい施設等の改修（帆船日本丸の修繕）	29-6, 37-3
3 山下ふ頭の再開発	★ 新たな事業計画策定に向けた検討	29-5
	山下ふ頭用地の造成・暫定活用等	29-5

### 3 安全・安心で環境にやさしい港

主要施策	主な事業	政策・施策番号
1 カーボンニュートラルポートの形成	★ 臨海部の脱炭素化に向けた取組等	18-1, 37-4
	★ 埠頭における脱炭素化の推進	18-1, 37-4
	豊かな海づくり	18-1, 25-2, 31-6, 37-3・4
2 安全で安心な港づくり	耐震強化岸壁等の整備	33-3, 37-2
	海岸保全施設の整備	34-1, 37-5
	★ 災害情報把握設備の導入検討	33-3, 34-3
	★ 港湾施設等の維持保全	37-2・3, 38-1
	★ 港湾施設等の管理	37-3, 38-1
	保安対策（特定外来生物・SOLAS対策）	37-3, 38-1
	働きやすい港湾の環境整備	38-1

### 【参考】中期計画における政策・施策（抜粋）

政策	施策
18 脱炭素社会の推進	1 脱炭素化と市内経済の持続的な成長の促進
25 世界から集いつながる国際都市の実現	2 国際連携・協力の推進
29 活力ある都心部・臨海部のまちづくり	5 山下ふ頭再開発の推進 6 回遊性の向上と多様な主体の連携によるにぎわいづくりの推進
31 自然豊かな都市環境の充実	6 良好な水環境の創出、多様な生き物を育む場づくり
33 地震に強い都市づくり	3 都市インフラ耐震化の推進
34 風水害に強い都市づくり	1 汚濁をできるだけ防ぐための対策の推進 3 適切な避難行動につなげるための対策の推進
37 国際競争力のある総合港湾づくり	1 デジタル技術の活用等による港湾機能の向上 2 ふ頭機能の再編・強化の推進 3 クルーズ船の受入と環境整備 4 カーボンニュートラルポートの形成 5 海岸保全施設の整備
38 公共施設の計画的・効果的な保全更新	1 都市インフラの着実な保全更新の推進

## V 目標達成に向けた組織運営

「心身ともに健康でいきいきと働く職場づくり」を組織運営の基本とし、全職員が「市民目線」「スピード感」「全体最適」の視点で、従来の枠にとらわれることなく「創造と転換」にチャレンジし、効率的・効果的に事務・事業を推進します。

### 1 公民一体の連携強化

庁内関係部署だけでなく関係団体、民間事業者等と強固に連携し、一丸となって事務・事業を推進します。

- ① 局内の部署間の縦割りの壁を取り払い、局一丸となって事業を進めることで、迅速かつ効果的に事業を推進します。
- ② 複雑化する行政課題に対応するため、関係区局と横断的に連携するとともに、活発なコミュニケーションを図り、スピード感を持って事業を推進します。
- ③ 国や外郭団体・関係団体、各指定管理者と連携を強化し、効率的に事業を推進します。
- ④ 港湾関係事業者、船会社、荷主企業等、各事業者との連携を強化し、それぞれのニーズに合ったサービスを提供します。

### 2 効率的・効果的な事務・事業の推進

限られた資源の中で多様化・複雑化する課題に対応し、市民の満足度を高めていくために、全職員がDXの活用を推進し、効率的・効果的な業務執行に努めます。

- ① 職場内の定例会議や局内の会議等を単なる情報提供の場とせず「議論の場」とすることで、自由闊達な意見を引き出し、創造性の向上を図ります。
- ② 会議についてはWebシステムも活用するとともに、事前の資料送付や論点整理を行い、終了時間を明示することで、最小の時間で目的を達成できるよう工夫します。
- ③ 職場の状況に応じた朝礼と夕礼を実施し、責任職が職員の業務進捗を把握したうえで、優先順位付けや期限までのスケジューリング等、適切なマネジメントを行うことで、「ムダ・ムリ・ムラ」を排除して効率的な業務執行を図ります。

### 3 職員の満足度向上

質の高い行政サービスの実現には職員の満足度（ES）が重要であるという認識を全責任職が持ち、職員一人ひとりを大切にし、心理的安全性の高い職場をつくります。

- ① やりがいと誇りを持てるよう、職員の意見に耳を傾けるとともに、労いと感謝を伝えます。
- ② 業務目標設定時において、責任職は自身が設定した目標を職員と共有し、丁寧に面談を行うことで、業務目標における認識のギャップを解消します。
- ③ 責任職から職員へ積極的にコミュニケーションを図ることで、話しやすい・相談しやすい雰囲気を醸成します。
- ④ デジタルツールを積極的に活用し、業務効率化と負担軽減を図ります。

#### 「GREEN×EXPO 2027」の成功に向けた機運醸成の取組

市民利用施設の利用者やクルーズ船の乗下船客、来街者などの皆様に対し機運醸成を図ります。



【帆船日本丸のポスター掲示】



【ハンマーヘッドのポスター掲示】



【覚書締結式のロゴ】

#### ○ 市民利用施設等を活用したPR

客船ターミナルやスカイウォーク、海づくり施設や横浜みどり博物館などの市民利用施設、臨港パークなどの港湾緑地をはじめ、港湾局が所管する施設において、ポスターの掲示、パンフレットの配架等を行います。

#### ○ 集客イベントを活用したPR

港湾施設でのイベント主催者等に対し、PRや告知協力を依頼します。

#### ○ 公共工事におけるPR

本市発注工事における工事関係標識等の掲示にあわせて、工事用フェンスにポスターを掲示します。

#### ○ 海外からの視察受入におけるPR

海外から視察受入を行う際に、英語版リーフレットを配布し、海外に向けてPRを行います。

#### ○ 港湾局の各種覚書締結式におけるPR

港湾局における各種覚書締結式において、ロゴやポスターを掲示します。